# 麻布幼稚園だより　６月号

平成２６年５月３０日　港区立麻布幼稚園　　園長　大島　美知代

## 大人の関わりの重要さ

園長　大島　美知代

5 月 20 日今年度初めての遠足「新宿御苑への親子遠足」を実施しました。3 歳児は担任と共に親子の触れ合い遊び、4，5 歳児は担任と友達と探検遊びをしました。

幼稚園では昨年度の反省を基に今年度の遠足の内容を計画し、実施しました。そして実施後には保護者へのアンケートをお願いしました。来年度の遠足については、保護者のご意見ご感想を参考にし、計画してまいります。遠足の参加、アンケートのご協力、ありがとうございました。

入園してほぼ２か月経ち、新入園児も担任との信頼関係ができてきました。持ち上がり担任の年長クラスは昨年度までの関係を基盤とし、様々な活動を展開しています。ほとんどの園児は園生活に慣れてきたように思えます。この時期になぜ「親子遠足」を実施するのでしょうか。それは「幼児にとっての社会=幼稚園の生活」と「親子の関わり=家庭生活」の橋渡しの機会となる遠足だからです。園児となった子どもは母親から離れて社会に出ます。今まで一緒にいた母親から離れるのが初体験の場合は、抵抗を示すのも当然です。園児となり、母親から離れて幼稚園で過ごすうちに自分の居場所を見つけます。次第に幼稚園も安心できると感じると母親から離れるのもスムーズになってきます。私は親子の関わりが幼児期の脳の発達について関連があると思い、調べてみました。

「脳の発達には『パターン・ラーニング』という能力が大きく関わると言われている。『パターン・ラーニング』とは、大人は脳で考えて理解しようとするのに比べて、赤ちゃんは考えるのではなく体で感じたままをそのまま吸収してしまう能力のことである。すなわち繰り返し見聞きすることをそっくりそのまま身につけてしまうことである。」

引用　幼児期から児童期に基本的生活習慣や規範意識を身につけさせることの重要性について―脳の発達と心のメカニズムの見地から―（家庭教育課長　山本　肇一ほか３名）

この報告書には「幼児期には並はずれた吸収力を発揮して繰り返して体験していくことは、脳に刻み込まれていくのである。ということは一番よく接触する家族や保護者から学ぶことが多いということになる。周囲の大人がしっかりとした大人の習慣を見せていくことで、幼児は理屈抜きでそれらを身につけていく（『パターン・ラーニング』）。このように幼児期から児童期の脳の発達には、そばにいる大人の関わり方が重要であるということである。」と示しています。

「関わる者が一番大切にしたいことは「自分をいつも愛してくれる人がいる」「自分は大切な人間なんだ」「自分は自分でいいんだ」ということである。子どもの心が成長していく時に、それが一番の土台となる。そのことを踏まえ、基本的生活習慣の育成に努めていくことが大切である。」（報告書から引用）

心も体も発達する大切な時期、「幼児期」。幼児期の脳の発達に関わるすべての大人の役割が重要です。幼児期にかかわるすべての大人の関わりを見直してみましょう。